

2019年4月25日

～静岡県内主要産業の四半期見通し調査（2019年4～6月期）～

輸出環境の悪化を受け 重くなる景気回復の足取り

現況について

民生用電器部品、情報サービスや人材派遣など国内向け業種は底堅く推移しているが、外需を中心とする工作機械はブレーキがかかり、消費も力強さを欠くなど、勢いは鈍化している。

今後の見通しについて

10日間の大型連休で観光・レジャーなど行楽需要に期待がかかるが、梱包資材や住宅、自動車などで盛り上がりは欠くとみられ、総じて景気回復の足取りは重くなる見通し。

なお、業種ごとの4～6月期の業界景気見通しは、主要20業種のうち「観光・レジャー」が『やや上昇』、「工作機械」が『やや下降』、残る18業種が『横ばい』。

『順調』が3業種、『普通』が12業種、『低調』が5業種となる見通し

調査項目 業種	業界景気	
	現況 (1～3月)	見通し (4～6月)
製茶	● → ●	●
食品・飲料	○ → ○	○
家庭紙	○ → ○	○
産業用紙	● → ●	●
工作機械	○ ↘ ○	○
民生用電器部品	○ → ○	○
自動車部品	○ → ○	○
二輪車部品	● → ●	●
建設	○ → ○	○
住宅	○ → ○	○
大型小売店	● → ●	●
食品スーパー	● → ●	●
自動車販売	○ → ○	○
家電量販店	○ → ○	○
運輸・倉庫	○ → ○	○
情報サービス	○ → ○	○
外食	○ → ○	○
観光・レジャー	● ↗ ○	○
リース	○ → ○	○
人材派遣	○ → ○	○

担当：主任研究員 岩間 晴美

輸出環境の悪化を受け、重くなる産業景気回復の足取り

県内の産業景気は、民生用電器部品や情報サービス、人材派遣といった国内向け業種が底堅く推移している一方、外需を中心とする工作機械はブレーキがかかり、消費も力強さを欠くなど、勢いはやや鈍化している。また、暖冬の影響により、野菜などの単価が下落して売上に響いたほか、冬物衣料品やホット飲料缶も伸び悩むなど、一部の季節商品ではマイナスの影響を受けたとみられる。

今後の見通しについては、10日間の大型連休で観光・レジャーなど行楽需要に期待がかかる一方、工作機械で慎重姿勢がみられるほか、消費増税前の駆け込み需要が梱包資材や住宅、自動車などで期待されるものの、盛り上がりは欠くとみられ、総じて県内産業景気回復の足取りは重くなると見込まれる。

(1) 業界景気の現況について (2019年1～3月期)

県内産業（主要20業種）の現況（2019年1～3月期）は、『好調』の業種はなく、『順調』が「工作機械」「民生用電器部品」「情報サービス」「人材派遣」の4業種、『普通』が「食品・飲料」「家庭紙」「自動車部品」「建設」「住宅」「自動車販売」「家電量販店」「運輸・倉庫」「外食」「リース」の10業種、『低調』が「製茶」「産業用紙」「二輪車部品」「大型小売店」「食品スーパー」「観光・レジャー」の6業種で、『不調』業種はなかった。

(2) 業界景気の見通しについて (2019年4～6月期)

2019年4～6月期の景気見通しは、全20業種のうち、静岡デスティネーションキャンペーンの宣伝効果により観光客の増加が見込めそうな「観光・レジャー」が『低調』から『普通』へ『やや上昇』、内需の慎重姿勢が続く「工作機械」が『順調』から『普通』へ『やや下降』、残る18業種が『横ばい』の見通しとなった。

『横ばい』18業種のうち、『順調』のまま『横ばい』が続くのは、業務用エアコンや買い替え需要が底堅い冷蔵庫などがけん引する「民生用電器部品」、首都圏からの委託案件が堅調な「情報サービス」、製造を中心に一般事務や医療・介護など多くの業種で需要が見込まれる「人材派遣」の3業種。

『普通』のまま『横ばい』が続くのは、水産缶の需要が堅調な「食品・飲料」、昨年稼働した新設備が生産を順調に増やしている「家庭紙」、軽自動車の下支えすると見込まれる「自動車部品」、製造業の投資が伸びるとみられる「建設」、3月末までに契約に至った注文住宅の着工が進むと予想される「住宅」、消費増税前の駆け込み需要が徐々に出てくるとみられる「自動車販売」、薄型テレビや冷蔵庫の需要が底堅い「家電量販店」、総じて前年並みの水準は確保すると見込まれる「運輸・倉庫」、ゴールデンウィークが10連休となり前年比プラスが見込めそうな「外食」、主力の情報通信機器が堅調な「リース」の10業種。

『低調』のまま『横ばい』が続くのは、繰越在庫が多い上に需要低迷が続く「製茶」、製品価格の値上げが思うように進まない「産業用紙」、海外の中・大型車需要が振るわない「二輪車部品」、衣料品の競争激化や食料品の単価下落で伸び悩む「大型小売店」、暖冬による豊作で春野菜の単価下落が見込まれる「食品スーパー」の5業種。

静岡県内主要産業四半期見通し調査 『現況』と『見通し』推移

年 次		2016年			2017年				2018年				2019年
四 半 期		II	III	IV	I	II	III	IV	I	II	III	IV	I (今回調査)
対象月(○は調査月)		4～⑥	7～⑨	10～⑫	1～③	4～⑥	7～⑨	10～⑫	1～③	4～⑥	7～⑨	10～⑫	1～③
業 種 数	好調 ☀	0	0	0	0	0	0	1	1	1	1	0	0
	順調 ○	2	2	2	2	3	3	2	2	2	3	4	4
	普通 ◐	7	7	6	8	8	9	8	10	10	10	10	10
	低調 ☁	10	10	11	9	8	8	9	7	7	6	6	6
	不調 ☂	1	1	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0
	全業種の平均階級値	2.50	2.50	2.45	2.55	2.65	2.75	2.75	2.85	2.85	2.95	2.90	2.90
業 界 景 気 の 『 現 況 』	好調：5												
	順調：4												
	普通：3												
	低調：2												
	不調：1												
	業 界 景 気 の 『 見 通 し 』	上 昇 ↗	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
業 種 数	やや上昇 ↗	0	0	2	0	1	0	2	1	1	1	1	1
	横ばい →	19	20	18	20	19	20	18	18	19	18	19	18
	やや下降 ↘	1	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	1
	下 降 ↘	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

注1) 「業界景気の現況」および「業界景気の見通し」は、対象企業経営者が業界景気動向をどうみているかを調査したもの。調査は、毎年3、6、9、12月に実施。「業界景気の現況」とは、調査時点（3月調査であれば1～3月期）における業況、「業界景気の見通し」とは、調査時点における翌期（3月調査であれば4～6月期）の見通しを示す。

注2) 調査方法は、アンケート調査とヒアリング調査による。アンケート調査の概要は、以下の通り。
調査時点…2019年3月上旬
回答企業…県内主要20業種（207社）

注3) 平均階級値は、好調：5、順調：4、普通：3、低調：2、不調：1とする、20業種の平均値。

2019年4～6月期 静岡県内主要産業四半期見通し調査一覧表

調査項目 業種	業界景気		静岡県内主要産業の見通し									
	現況 (1～3月)	見通し (4～6月)	生産量 (対比伸び率 前1～3月期)	売上高 (対比伸び率 前1～3月期)	生産量 (伸伸び率 前年同期比)	売上高 (伸伸び率 前年同期比)	操業度	需給バランス	製品在庫水準	原材料価格の動向 (前1～3月期対比)	製品価格の動向 (前1～3月期対比)	受注残 (ヵ月)
製茶	☁ → ☁	☁	—	—	—	→	○	均 衡	適 正	→	→	—
食品・飲料	○ → ○	○	↗	↗	↗	↗	◎	均 衡	適 正	↗	→	0.5～1.0
家庭紙	○ → ○	○	↗	↗	↗	↗	○	均 衡	適 正	→	↗	0.1～1.0
産業用紙	☁ → ☁	☁	↗	↗	↗	↗	○	均 衡	適 正	→	→	0.1～1.0
工作機械	○ ↘ ○	○	→	→	↘	↘	○	供給超過	適 正	→	→	1.0～8.5
民生用電器部品	○ → ○	○	→	→	→	→	○	均 衡	適 正	→	→	1.0～3.0
自動車部品	○ → ○	○	↘	↘	→	→	○	均 衡	適 正	→	→	0.1～3.0
二輪車部品	☁ → ☁	☁	→	→	↘	↘	○	均 衡	適 正	→	→	0.3～1.0
建設	○ → ○	○	—	↘	—	→	◎	需要超過	適 正	↗	→	3.0～11.0
住宅	○ → ○	○	—	↗	—	↗	○	均 衡	適 正	↗	→	3.0～6.0
大型小売店	☁ → ☁	☁	—	→	—	↘	—	供給超過	適 正	→	→	—
食品スーパー	☁ → ☁	☁	—	→	—	↘	—	供給超過	適 正	→	→	—
自動車販売	○ → ○	○	—	↘	—	→	—	均 衡	適 正	→	→	—
家電量販店	○ → ○	○	—	→	—	→	—	供給超過	適 正	→	→	—
運輸・倉庫	○ → ○	○	—	→	—	→	○	均 衡	—	→	→	—
情報サービス	○ → ○	○	—	↗	—	↗	○	需要超過	—	→	→	—
外食	○ → ○	○	—	→	—	→	—	均 衡	—	→	→	—
観光・レジャー	☁ ↗ ○	○	—	↘	—	↗	—	供給超過	—	→	→	—
リース	○ → ○	○	—	↘	—	→	—	—	—	—	—	—
人材派遣	○ → ○	○	—	↗	—	↗	○	需要超過	—	↗	→	—

表の見方と注意

業界景気の現況 見通し	業界景気の見通し	生産量・売上高の伸び率 原材料・製品価格の動向	操業度	需給バランス	製品在庫水準
好調 ☀	上昇 ↗	非常に増加・上昇 (+10%以上) ↗	100～90% ◎	非常に需要超過	非常に過少
順調 ○	やや上昇 ↗	増加・上昇 (+3～+9%) ↗	89～80% ○	需要超過	過少
普通 ○	横ばい →	横ばい (+2～△2%) →	79～70% ◇	均 衡	適 正
低調 ☁	やや下降 ↘	減少・下降 (△3～△9%) ↘	69～60% ⊙	供給超過	過多
不調 ☂	下降 ↘	非常に減少・下降 (△10%以下) ↘	59%以下 ●	非常に供給超過	非常に過多

主要業種の現況と4～6月期の景況見通し

業種	業界天気	繰越在庫や需要低迷で、製茶問屋は上級茶の仕入れに慎重
製茶	☁ → ☁	<p>(現況)・製茶問屋の売上高は、前年並みとなった模様。ドリンク向け商品や家庭需要向けの値ごろ感のある商品は一定のニーズがあるものの、高価格帯の商品は需要が低迷しており、平年より暖かい日が続いたことも逆風となった。</p> <p>(見通し)・製茶問屋の売上高は前年並みの見込み。酷暑や暖冬で年間を通じて需要が低迷し、前年よりも繰越在庫が多い上に、上級茶の需要低迷も続き、製茶問屋は仕入れに慎重な姿勢で臨むとみられる。ただし、海外需要は堅調で、抹茶の原料となる碾茶などは高価で取引されそう。</p>

業種	業界天気	サバ缶など水産缶需要が堅調で、売上高は前年を上回る
食品・飲料	☉ → ☉	<p>(現況)・県内の食料缶メーカーの売上高は、前年比微増となった模様。健康志向を背景にサバ缶の売上が好調で、全体を下支えした。飲料缶類の生産量は、暖冬の影響でホット飲料缶の需要が伸び悩み、生産量は前年並みにとどまったとみられる。</p> <p>(見通し)・県内の食料缶メーカーの売上高は、前年を上回る見通し。サバ缶を中心に水産缶の需要が堅調に推移するとみられる。一方、資材価格の値上げにより製造コストが上昇し、収益は悪化する模様。飲料缶類は、大型連休での行楽需要が期待され、生産量は前年を上回る見通し。</p>

業種	業界天気	トイレ紙は新設備で増産、設備を増設する企業も
家庭紙	☉ → ☉	<p>(現況)・家庭紙生産量は、前年をやや上回った。再生トイレ紙は前年をやや上回り、コストの高止まりを受けて値上げが進められた。ティッシュも前年をやや上回った模様。輸入が減少したことで、これを補うべく国内での増産が進んだ。</p> <p>(見通し)・家庭紙生産量は、前年をやや上回る見通し。再生トイレ紙は、前年をやや上回るとみられる。昨年稼働した新設備が生産を順調に増やす中、長尺などの需要が堅調で6月に設備を増設する企業もある。ティッシュも前年をやや上回り、一段の値上げが進みそう。</p>

業種	業界天気	増税前の駆け込みで、段ボールなど梱包資材の需要拡大
産業用紙	☁ → ☁	<p>(現況)・産業用紙生産量は前年をやや上回った模様。段ボール原紙は加工食品向けなどの需要が堅調で、製品の値上げも進んだ。一方、原料となる段ボール古紙の輸出相場は落ち着いた。白板紙は前年並みとなるも、製品価格はやや値上げされた。</p> <p>(見通し)・産業用紙生産量は、前年をやや上回る見通し。段ボール原紙は、消費増税前の駆け込み需要を受けて幅広い業種で梱包資材の需要が拡大し前年をやや上回る模様だが、製品価格は弱含みで推移するとみられる。白板紙は前年並みと見込まれ、値上げは着実に進んでいくと予想される。</p>

☀ 好調 ○ 順調 ● 普通 ☁ 低調 ☂ 不調 業界天気は上段が1～3月期、下段が4～6月期

業種	業界天気	受注水準は高いものの、前年実績を▲25%前後下回る見通し
工作機械	○ → ◐	(現況)・全国および県内の受注額は、前年を▲25%程度下回って推移した模様。外需のメイン市場である中国向けの減少が内需にも波及し、ともにブレーキが掛かっている。ただし、好不況の判断基準となる受注水準は確保している。 (見通し)・全国および県内の受注額は、ともに前年実績を▲25%前後下回って推移する見通し。中国市場における設備投資の改善が見通せない状況下、内需も慎重姿勢が続く見通し。省力化投資は期待できるものの、設備投資に対する慎重姿勢がどこまで拡大するかが懸念される。

業種	業界天気	家庭用エアコンは前年割れ、業務用は小中学校向けで特需
民生用電器部品	○ → ○	(現況)・県内の家庭用エアコンの出荷台数は、堅調な買い替え需要を背景に前年を+3%程度上回り、業務用も同+5%前後上回って推移したとみられる。冷蔵庫の出荷台数は、前年をやや上回った模様。 (見通し)・県内の家庭用エアコンの出荷台数は、高水準だった前年には届かないとみられるが、業務用は猛暑対策で夏前までに小中学校への設置が求められており、前年を大きく上回る見通し。冷蔵庫は、底堅い買い替え需要に支えられ、前年水準を確保できる見込み。

業種	業界天気	国内販売は軽市場が下支えし、県内生産量は前年並み
自動車部品	◐ → ◐	(現況)・全国の自動車生産台数は、前年を+2%程度上回った模様。リコール問題により一部完成車メーカーでは一時生産停止となったが、全体としては国内市場、輸出ともに堅調だった。県内部品メーカーの生産量は、前年実績を確保した模様。 (見通し)・全国の自動車生産台数は、前年並みで推移する見通し。国内販売は、一部完成車メーカーにおけるリコール問題の影響が残るものの、軽市場が下支えする見込み。輸出も、減速が懸念される北米を除き、堅調な動きが見込まれる。県内部品メーカーの生産量は、ほぼ前年並みで推移する見通し。

業種	業界天気	欧米二輪市場が停滞、県内部品生産は前年を下回る
二輪車部品	☁ → ☁	(現況)・全国の完成車生産台数は、前年をやや割り込んで推移した模様。原付クラスは比較的堅調だが、県内部品生産に直結する中・大型車は欧米市場の停滞を受け需要が減少。県内部品メーカーの生産量は前年実績を下回った模様。 (見通し)・全国の完成車生産台数は、前年並みで推移する見通し。原付クラスは底堅く推移するとみられる一方、中・大型車は新型車効果が一巡する中で海外市場の回復は望み難く、小幅ながら前年実績を割り込むとみられる。県内二輪車部品メーカーの生産量も、前年をやや下回って推移するとみられる。

☀ 好調 ○ 順調 ◐ 普通 ☁ 低調 ☔ 不調 業界天気は上段が1～3月期、下段が4～6月期

業種	業界天気	公共は前年並み、民間は製造業がけん引し例年水準を確保
建設	○	(現況)・県内の公共工事契約額は、前年を下回った模様。県、国関係等の契約は低調だった一方、民間の工事費予定額は、大手メーカーの技術棟新設など製造業で投資が進み、前年を上回った模様。
	→	(見通し)・県内の公共工事契約額は、前年並みで推移する見通し。大型の道路関連工事や学校の改修工事の契約が進むとみられる。民間の工事費予定額は、好調だった前年の水準は下回るものの、食品関連など製造業の投資が伸びるとみられ、例年水準は確保する見通し。

業種	業界天気	消費増税前の駆け込み需要で、持家・分譲住宅の着工が増加
住宅	○	(現況)・県内の持家新設着工戸数は、前年を上回った模様。貸家は前年の水準は確保するものの、市場全体に飽和感が漂い弱含んだ。分譲は大型案件を欠き、マンションが伸長した前年の水準を大きく下回ったとみられる。
	→	(見通し)・県内の持家新設着工戸数は、前年を上回る見通し。消費増税前の駆け込み需要は前回(2014年4月)の増税時に比べて小さいものの、3月末までに契約に至った注文住宅の着工が進むとみられる。貸家は前年並み、分譲は増税前の契約増を見据えた建売住宅の着工が増える見通し。

業種	業界天気	衣料品は競争激化、食料品は生鮮品の単価下落で伸び悩む
大型小売店	☁	(現況)・県内大型小売店の既存店売上高は、前年をやや下回った模様。百貨店の販売額は、暖冬で冬物衣料が振るわず、前年を下回った。総合スーパーの販売額は、ダイコンや白菜といった青果の単価下落で前年を割り込んだとみられる。
	→	(見通し)・県内大型小売店の既存店売上高は、前年をやや下回る見通し。百貨店は、化粧品が堅調に推移するとみられるものの、主力の衣料品はアパレル会社の直販サイトとの競争激化で不振が懸念される。総合スーパーは、青果の単価下落で主力の食料品が伸び悩む模様。

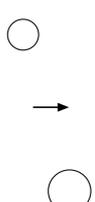
業種	業界天気	キャベツやネギなどの青果は豊作で単価が下落
食品スーパー	☁	(現況)・県内主要食品スーパーの既存店売上高は、前年をやや割り込んで推移した模様。暖冬で白菜などの鍋物野菜の単価が下がったことが影響した。精肉では、豚コレラの感染拡大で豚肉の供給量が減少、鶏肉も相場安で販売額が押し下げられた。
	→	(見通し)・県内主要食品スーパーの既存店売上高は、前年をやや下回って推移する見通し。農産品の販売額は暖冬による豊作で、キャベツやネギ、玉ネギといった春野菜の単価下落が見込まれ、前年をやや下回る見通し。水産品はサクラエビの漁獲量が少ないため、価格が高騰しても販売額は伸びない模様。

☀ 好調 ○ 順調 ● 普通 ☁ 低調 ☔ 不調 業界天気は上段が1～3月期、下段が4～6月期

業種	業界天気	新型車効果もあり登録車は前年並み、軽自動車は堅調
自動車販売		<p>(現況)・県内の登録車販売台数は、前年を▲2.8%下回った。登録車は新型車以外が振るわず同▲3.1%、昨年まで堅調だった軽自動車も勢いを失い同▲2.3%のマイナスで、ともに3月の落ち込みが大きかった。</p> <p>(見通し)・県内の登録車販売台数は、前年並みの水準で推移する見通し。消費増税前の駆け込み需要が徐々に出てくるとみられるが、ピークは夏以降となる見込み。軽自動車は、トールタイプの人気が続いているものの、前年の販売が好調であったため、前年水準を確保できるか微妙。</p>

業種	業界天気	単身世帯向け冷蔵庫が底堅く、前年並みで推移
家電量販店		<p>(現況)・県内の家電販売額は、前年をやや上回った模様。薄型テレビは前年並みで推移し、洗濯機は大容量モデルが人気で前年をやや上回った。また、インフルエンザの感染拡大を背景に、加湿器の販売額が前年を大きく上回った。</p> <p>(見通し)・県内の家電販売額は、前年並みで推移する見通し。薄型テレビは底堅い買い替え需要に支えられ、前年並みで推移する見込み。冷蔵庫は、単身世帯向けのコンパクト機種が人気を集め、前年を上回る見込み。一方、掃除機はロボット型の買い増し需要の一巡により前年を下回るとみられる。</p>

業種	業界天気	トラック輸送量は、前年水準を確保する模様
運輸・倉庫		<p>(現況)・県内のトラック輸送量は、輸送用機器や食料品がやや減少した一方、紙・パルプが堅調に推移し、全体では前年並みの水準を確保した模様。普通倉庫の入出庫高は、電気機械や紙・パルプの荷動きが堅調で前年をやや上回ったとみられる。</p> <p>(見通し)・県内のトラック輸送量は、業種によってばらつきはあるものの、総じて前年並みの水準は確保すると見込まれる。倉庫の入出庫高については、ウエートの高い紙・パルプや電気機械、食品関連などで安定した荷動きが見込まれ、前年をやや上回る見通し。</p>

業種	業界天気	首都圏からの委託案件で堅調、改元や消費増税への対応も
情報サービス		<p>(現況)・全国の売上高は前年をやや上回ったとみられる。ソフト開発は、受注ソフトが好調で、とくに製造業やサービス業、官公庁向けの案件が多かった。県内も、首都圏からの受託や流通関連の案件などがけん引して好調を維持した。</p> <p>(見通し)・全国の売上高は、前年をやや上回る見通し。ソフト開発が引き続き好調で、県内も首都圏からの委託案件が底堅く推移すると見込まれる。改元や消費増税への対応案件も増えると思われるが、SEなどの人手不足が懸念され、案件に対応できないケースも予想される。</p>

☀ 好調 ○ 順調 ◐ 普通 ☿ 低調 ☔ 不調 業界天気は上段が1～3月期、下段が4～6月期

業種	業界天気	ゴールデンウィークの10連休は、外食にプラスの影響
外食	  	<p>(現況)・県内主要外食店の売上高は、前年をやや上回った模様。外食需要は底堅く、大河ドラマ放映終了に伴うマイナスの特殊要因もなくなり、暖かい日が多かったことで外出する機会が増えたこともプラスに作用した。</p> <p>(見通し)・県内主要外食店の売上高は、前年をやや上回る見通し。外食需要は堅調で、ゴールデンウィークの10連休は昨年よりも休日が3日増えるため、前年比プラスが見込めそう。ただし、食材や調味料の値上げが相次いでおり、客数減少を懸念して値上げを先送りすると収益悪化が深刻化しそう。</p>

業種	業界天気	静岡デスティネーションキャンペーン効果で観光客は+5~10%
観光・レジャー	  	<p>(現況)・県内主要旅館の総売上高は、前年をやや下回った模様。国内需要は堅調だったが、早春の梅や桜がセールスポイントである静岡県にとっては、暖かい日が多かったことで他県でも花の開花が順調に進んだことから、観光客が県外に分散した。</p> <p>(見通し)・県内主要旅館の売上高は、前年をやや上回る見通し。「静岡デスティネーションキャンペーン」のテレビCMなどの宣伝効果もあり、宿泊需要も日帰り需要も前年比+5~10%の増加が見込めそう。ゴールデンウィークの10連休もプラスに作用する模様。</p>

業種	業界天気	情報通信機器は前年を上回るが、工作機械などが弱含む
リース	  	<p>(現況)・県内のリース件数・契約高は、前年をやや下回った模様。不安定な海外情勢を背景に、一部のメーカーは設備投資に慎重な姿勢を示し、リースの利用も減少した。機種別では、工作機械や産業機械が前年を割り込んだ。</p> <p>(見通し)・県内のリース件数・契約高は、前年並みで推移する見通し。主力の情報通信機器は前年を上回るとみられる一方、工作機械などは、中国経済の減速を受けて弱含むと予想される。地域別では、とくに中部で設備投資が伸び悩み、リース契約も落ち込むことが懸念される。</p>

業種	業界天気	製造を中心に一般事務や医療・介護などで需要を見込む
人材派遣	  	<p>(現況)・県内の実働派遣労働者数は、前年を+5%程度上回った模様。製造のほか営業や販売、一般事務など幅広い分野で旺盛な需要が続いた。一方、供給サイドでは、派遣先のニーズを満たす人材を思うように確保できず苦戦した模様。</p> <p>(見通し)・県内の実働派遣労働者数は、前年をやや上回って推移する見通し。製造を中心に一般事務や医療・介護など多くの業種で需要が見込まれる。ただし、供給サイドでは、人材の確保が難しく、マッチングも困難な状況が続くとみられ、伸びは限定的となる見通し。</p>

☀ 好調 ○ 順調 ◐ 普通 ☁ 低調 ☂ 不調 業界天気は上段が1~3月期、下段が4~6月期

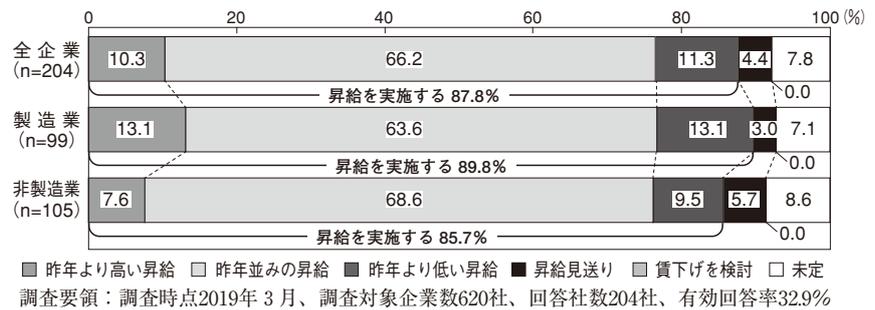
ウォッチング

昇給を実施する企業は前年比+ 3.7 ポイント上昇、製造業は約 9 割が昇給実施

県内企業に、今年度の昇給（賃上げ）に対する方針を聞いたところ、昇給を実施する（「昨年より高い昇給」「昨年並みの昇給」「昨年より低い昇給」の合計）と答えた企業は 87.8%で、前回調査（84.1%）から+ 3.7 ポイント上昇した（図表 1）。

業種別では、昇給実施企業の割合は製造業で 89.8%、非製造業で 85.7%となった。製造業では、電気機器（92.3%）や輸送用機器（92.0%）などで昇給を実施する企業が 9 割を超えた。一方、非製造業では、建設業（94.1%）やサービス業（同）では昇給を実施する企業が 9 割を超えたが、運輸・通信業（81.3%）や卸・小売業（81.0%）では 8 割にとどまった。

図表 1 今年度の昇給（賃上げ）の見通し



特別調査

現時点における消費増税に伴う駆け込み需要の動きは、「建設業」が先行

消費増税に伴う駆け込み需要の動きがあるとの回答は、「建設業」で 76.4%と最も多く、次いで「その他の製造業」や「パルプ・紙・紙加工品」、「卸・小売業」などとなっている（図表 2）。一方、「食料品」や「ホテル・旅館業」などで動きがあるのは全体の 3 割程度にとどまるなど、業種によってばらつきがみられる。

図表 2 消費増税に伴う駆け込み需要の動き（業種別）

